

## 事例紹介

### 鹿児島県徳之島町立 <sup>ほま</sup>母間小学校

# ICTで、離島・へき地の教育革新！

## ～授業・補充学習・遠隔交流授業の3本柱～

奄美群島の徳之島にある徳之島町立母間小学校では、平成27年度より文部科学省「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」の実証研究「離島複式モデル」の指定を受け、日々の授業改善や課題解決に向け研究を進めています。



### 補充学習 土曜日はドリルで「学士村塾」

徳之島町では子どもたちの自学自習の習慣化と学力向上を目的とし、土曜日と平日の夕方に希望者を対象とした「学士村塾」という補充学習を、町の職員を中心に運営しています。

#### ● 子どもたちに学習の機会を与えたい

母間小学校では、今年度から学校を開放して学士村塾を開催し、タブレットでeライブラリのドリル学習を行っています。参加は希望制ですが、子どもたち同士で「楽しい！」という評判が広がり、この日も1年生～6年生まで、多くの子どもたちが集まっていました。

**学習塾の少ない環境の中でも「子どもたちに学習の機会を与えたい」という町と学校とが連携して、参加した子どもたちの学習を見守っています。**



#### ● マイページでモチベーションアップ！

子どもたちはドリルを解くとマイページから自分の学習状況を確認します。マイページでは学習回数や点数に応じてイラストが推移したり、メダルがもらえるため、子どもたちのモチベーションアップに繋がっています。

子どもたちは友達と画面を見せ合い、**学習回数やメダル数を競い合いながら**一生懸命取り組んでいました。

この日だけで**80教材以上取り組んだ**子どももあり、先生から「頑張ったね」と誉められると、嬉しそうな笑顔を見せてくれました。

### 情報担当 赤崎 公彦 先生のお話

### ～問題を読み解く力がつく～

eライブラリは子どもが自分のペースで学習でき、勉強が苦手な子や抵抗を感じている子も取り組みやすく、**集中力を持続させながら楽しく学習することができます。**

問題の中には難しいものもありますが、子どもたちはしっかりと問題を読み、文字や絵などの情報から自己解決していきます。それらが**問題を読み解く力や情報活用能力にも繋がっている**と思います。

今後は学習履歴を活用し、子どもたちの学力やモチベーションをいかに引き上げていくかが課題です。eライブラリで子どもが基礎からしっかり積み上げて学習し、教師が履歴を分析して、授業だけでは把握することの難しい個々の弱点やつまづきをフォローをしていくことが、子どもの将来に繋がっていくと思います。



赤崎 公彦 先生

## ● 喜びの声が響く教室

2年生の赤崎先生のクラスでは算数「水のかさ」の単元のまとめにドリルで復習をしました。最初は一人ひとり問題を解き、最後は前方の大型テレビの画面を使って、代表者が問題を解いていきました。

先生から前で問題に挑戦する代表者を募ると「はい！僕やりたい！」と全員の手が上がり、全問正解すると「やったー！」と喜びの声が響いていました。



▲ 正解して大喜び！

## ● テスト前のドリルで点数UP!!

赤崎先生は単元の内容を定着・補完する役割として単元テストの前にドリルを活用しています。

2年生はこの流れをするようになってから、**単元テストで平均85～95点**の高い点数を取るようになったそうです。「今日は『水のかさ』の単位がわかったのかチェックしてみよう」と、授業と連動させながら効果的に活用しています。

授業では問題解決や思考力といった活用の部分を伸ばし、eライブラリで基礎基本を徹底して、**相互補完しながら**学力を伸ばしています。



## 遠隔

## 町内の学校と遠隔交流授業

### ● TV会議システムを使った合同授業

母間小学校では昨年度から町内の小学校(花徳小・山小)とTV会議システムを繋いで双方向型遠隔交流授業を行っています。

TV会議システムを使った遠隔授業の実現により、少人数学級の課題である「教員側の学習指導の困難」や「児童が多様な意見に触れる機会が少ない」という課題解決が期待されています。

そして、その遠隔授業でもeライブラリを活用して、間接指導の中で導入やまとめに、ドリルで習熟を図っているそうです。



▲ 遠隔授業で同じ時間に同じ授業が実現

## 福 宏人 校長先生のお話 ～子どもの学べるチャンスを広げたい～



福 宏人 校長先生

本校では『離島・へき地・山間部における授業改善』を目的とし、TV会議システムを使った遠隔授業やプログラミング授業、そして学士村塾や授業でのeライブラリの活用などを行っています。人口減少地域ならではの課題を解決する1つのツールとして、ICTは大きな可能性を持っていると感じています。

その中でeライブラリのドリルは、【授業の効率化・個人差に対応・教師の負担軽減】に繋がっています。そしてタブレットで使えるようになったことで、PC教室に限らず幅広く使えるようになり、授業の中で子どもたち一人ひとりに応じた**基礎基本の徹底**ができるようになりました。また、複式学級では、ドリルで「ずらし」の時間の空白を埋めることができ、大変効果的です。

今後もeライブラリなどICT利活用の研究によって、少規模校でも子どもたちの学べるチャンスを広げ、離島・へき地・山間部の教育を革新していきたいと思っております。